
夢の続きは妄想で

本上 ひろと

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢の続きは妄想で

【Nコード】

N1553B

【作者名】

本上 ひろと

【あらすじ】

気持ちよく観ていた夢が途中でさめちゃった。なら妄想するでしよ？

この間、仕事から帰ってきて、ウトウトしてた時に夢を観た。

机に座っている、20歳前後の女の子。よくわからないけど、彼女の机の前に長蛇の列。

自分もその列に加わっていた。そして自分の番になったとき、僕は彼女をナンパした。

「よかったら連絡先教えてくださいよ。」

彼女は嬉しそうに照れた。そして紙に名前だけ書いて僕に渡した。

「これじゃわかんないよー、携帯番号書いてよー」

彼女はまたうれしそうに

「ホントですかぁー？」

（内容的に会話になってないが夢だからしょうがない）

と言って、携帯番号を付け足してくれた。その時彼女はチラッと僕の顔を覗き込んだ。

僕はすごいドキドキしていたが、携帯番号を彼女が書いてくれたことが嬉しくてたまらなかった。

残念ながら、この幸せな夢はここで覚めた。

せっかく番号もらったのに。仕方ないからこのあとは妄想で楽しむか。

その日の夜に彼女に電話をかける。気の小さい僕は内心ドッキドキだ。

ブルルルル…

「はい、もしもし」

「あ、えーっと今日番号教えてもらったやつですけど…」

彼女はすぐわかったらしく、嬉しそうに照れながら、

「あ、はい、どーも。ホントに電話くれたんだね。」

僕も嬉しくてたまらなかった。

「もちろんですよー、電話するっていったじゃないですかあ」

「そうやって色んな子ナンパしてるんですか？」

「いやー声なんてかけられないよ、恥ずかしくて」

「じゃあなんで私なんかに声かけたんですか」

「タイプだったし、なんか声掛けなかったら後悔しそうだったんで、つい…」

彼女は上機嫌だった。

「またまたあー」

「いや、マジだってば！つか、声もかわいいし、なんか照れる」

「ウソでもうれしいよ」

「ウソじゃないってば、それより次の休み遊ぼうよ。」

「うん！」

：なんてなったら楽しいんだろうな。さて、そろそろ着替えて仕事行かなきゃ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1553b/>

夢の続きは妄想で

2011年1月26日00時33分発行